

## ■ 概況

当週（9月12日～18日）の国際石油市場は、前半、ハリケーン「フランシーヌ」をめぐる供給懸念、週半ばのヒズボラ戦闘員のポケベル爆発、米国利下げ期待で、総じて堅調に推移したが、終盤、FRBの利下げ決定の受け止めをめぐりわずかに軟化した。

NYのWTI原油先物市場は、10日の65.75ドルと約2年9か月ぶりの安値を受け、反動があり、12日は続伸の68.97ドルで始まり、13日は小幅に反落したものの、週明け16日は70ドル台を回復、17日は71.19ドルまで上昇、18日70.91ドルで終わった。

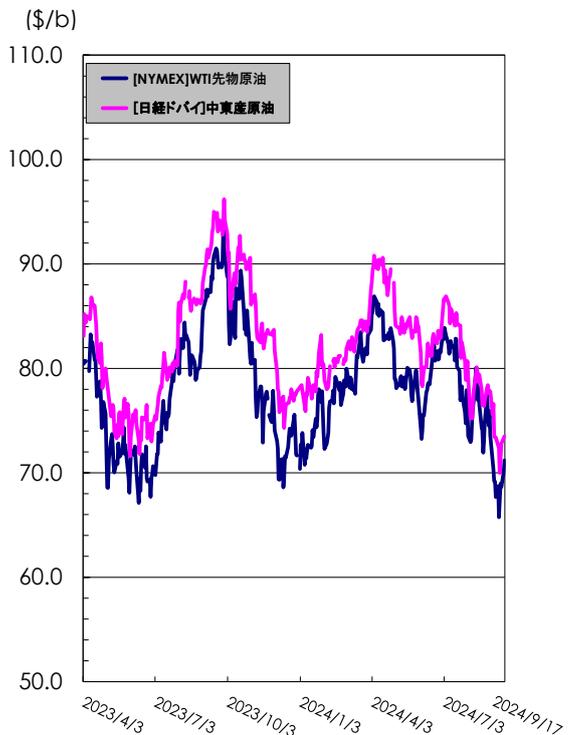
また、中東産バイ原油/東京市場（11月渡し）も、前週（9月5日～11日）70.00～73.40ドルの範囲で推移したが、当週は、9月12日71.50ドル、13日72.80ドル、17日73.50ドル、18日73.70ドル。

対ドル為替レート（TTM）は前週（9月5日～11日）142.12～143.79円の範囲で推移したが、当週は、9月12日142.85円、13日141.54円、17日140.77円、18日141.62円となった。

財務省が9月18日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、8月下旬の原油輸入平均CIF価格80,185円で前旬比1,855円安、ドル建て86.74ドルで前旬比0.21ドル安、為替レートは1ドル/146.97円。また、8月月間の原油輸入平均CIF価格82,513円で前旬比5,813円安、ドル建て86.87ドルで前旬比1.06ドル安、為替レートは1ドル/151.00円。

そのような中で、9月17日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値上がり、軽油は横ばい、灯油は同2円の値上がり（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は174.6円となった。9月19日～25日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は9.7円（補助金がない場合の次週予想価格184.3円で、168円から185円の補助率60%支給部分9.7円、185円を超える補助率100%支給部分は0円）と、現在の計算式になった2023年9月以降初めて100%支給を適用しないこととなった。

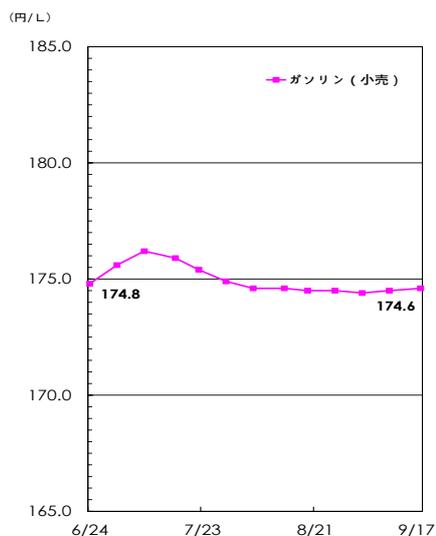
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/8～9/14	2,677 ▲48	▼-
	トッパー稼働率 (%)	"	77.3 ▲1.4	▲-
	原油在庫量 (千kl)	9/14	11,212 ▼59	▼-
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	9/17	73.50 ▲0.90	▼-21.4
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/16	70.09 ▲1.38	▼-21.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月下旬	86.74 ▼0.21	▲4.58
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	80,185 ▼1,855	▲6,616
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	146.97 ▲3.06	▼-4.61
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/17	141.77 ▲2.01	▲6.96



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/8 ~ 9/14	809 ▲ 35	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	713 ▲ 66	▲ -
	輸出	"	1 ▼ -49	▲ -
	在庫	9/14	1,588 ▲ 96	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 9/10 ~ 9/16	81.0 ➡ 0.0	▼ -9.0
		(TOCOM/中部) 9/13	80.0 ➡ 0.0	▼ -7.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/17	174.6 ▲ 0.1	▼ -7.4

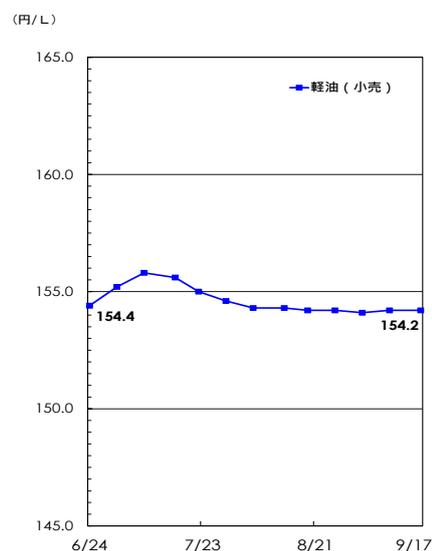
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

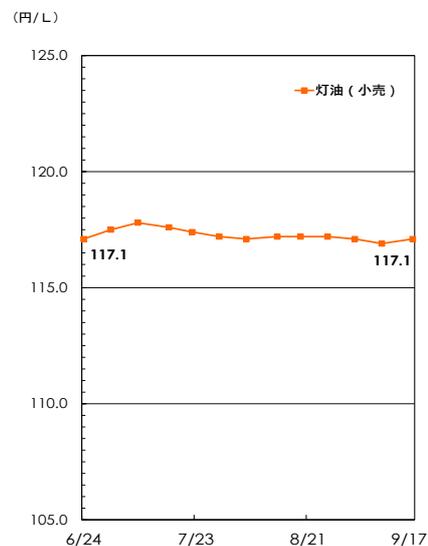
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/8 ~ 9/14	719 ▲ 99	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	634 ▲ 71	▼ -
	輸出	"	112 ▼ -11	▼ -
	在庫	9/14	1,454 ▼ -28	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 9/10 ~ 9/16	81.6 ▲ 0.5	▼ -6.3
		(TOCOM/中部) 9/13	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/17	154.2 ➡ 0.0	▼ -7.4

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/8 ~ 9/14	141 ▼ -1	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	-69 ▼ -130	▼ -
	輸出	"	5 ▼ -24	▼ -
	在庫	9/14	2,317 ▲ 205	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 9/10 ~ 9/16	80.0 ➡ 0.0	▼ -8.0
		(TOCOM/中部) 9/13	80.0 ➡ 0.0	▼ -6.2
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/17	117.1 ▲ 0.2	▼ -5.3



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(9/5~9/11)のNYMEX・WTI先物市場は65.75~69.15ドルの範囲で推移した。

当週、9月12日は、ハリケーン「フランシーヌ」は前夜ルイジアナ州に上陸、熱帯低気圧となったものの、メキシコ湾沿岸の石油施設には出荷停止など影響が出ており、短期的な供給懸念・需給ひっ迫から、続伸した。10月物終値は前日比1.66ドル高の68.97ドル。

週末13日は、熱帯低気圧「フランシーヌ」への供給懸念が緩和される中、前日のIEA月報が、2024年世界石油需要見通しをわずかながら下方修正、中国経済の減速やEV化の進展を指摘、さらに、米国稼働石油掘削機の稼働増加もあったことから、反落した。10月物終値は同0.32ドル安の68.65ドル。

16日は、連邦準備制度理事会(FRB)が今週開く連邦公開市場委員会(FOMC)での大幅利下げ(0.5%)決定への期待感から反発、70ドル台を回復した。10月物終値は同1.44ドル

高の70.09ドル。

17日は、米国景気の底堅さを示す市場予想を上回る堅調な米国の経済指標が発表される中、レバノンで親イラン武装集団「ヒズボラ」戦闘員が所持するポケットベルが同時間帯に多数爆発する事件が発生、イスラエルの関与が疑われ、中東地域の緊張が高まったことから、続伸した。10月物終値は同1.10ドル高の71.19ドル。

18日は、FRBが大幅利上げ(0.5%)を決定、景気対策として歓迎する向きのある一方、織り込み済みとの見方、FRBの経済・雇用情勢に対する警戒感の表れとの見方もあり、3営業日ぶりに小幅に反落した。この日の米国原油在庫の予想を上回る取り崩し発表は下値を支えた。10月物終値は同0.28ドル安の70.91ドル。

2 海外/米国石油市場

9月18日発表の9月13日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油在庫が前週比160万バレル減と、市場予想(50万バレル減)を上回る取り崩し、ガソリン・中間留分もわずかな積み増しだった。

EIAによると9月16日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比5.6セント安の1ガロン3.180ドル(119.6円/ℓ)と7週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比2.9セント安の1ガロン3.526ドル(132.6円/ℓ)と10週連続の値下がり。

ペーカーヒューズ社によると、9月13日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比5基増の488基と4週ぶりの増加となった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年9月8日~9月14日に休止したトッパー能力は48.6万バレル/日で、前週に対して17.1万バレル/日増加した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は267.7万klと、前週に比べ4.8万kl増加。前年に対しては14.4万klの減少。トッパー稼働率は77.3%と前週に対して1.4ポイントの増加、前年に対しては1.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.5%増、ジェット/7.1%減、灯油/0.6%減、軽油/15.9%増、A重油/31.1%増、C重油/75.8%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は11.2万kl(前週比1.1万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、A重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は71.3万kl(対前週10.1%増)と2週振りに増加した。ジェット5.2万kl(対前週51.2%減)、灯油-6.9万kl(対前週214.1%減)、軽油63.4万kl(対前週12.6%増)、A重油17.1万kl(対前週3.5%増)、C重油15.2万kl(対前週6.5%減)。

の増加となった。

(単位:千L)

	今週 (9/8 ~ 9/14)	前週 (9/1 ~ 9/7)	前週比
ガソリン	713	647	▲ 66 (10%)
ジェット燃料	52	106	▼ -54 (-51%)
灯油	-69	61	▼ -130 (-213%)
軽油	634	563	▲ 71 (13%)
A重油	171	166	▲ 5 (3%)
C重油	152	163	▼ -11 (-7%)
合計	1,653	1,706	▼ -53 (-3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

## 4 国内/製品在庫量

9月14日時点の在庫は、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは158.8万kl、前週差9.6万kl増。前年に対しては3.6万kl少ない。

灯油は231.7万kl、前週差20.5万kl増。前年に対しては25.2万kl少ない。

軽油は145.4万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては11.3万kl多い。

A重油は66.8万kl、前週差0.2万kl増。前年に対しては11.7万kl少ない。

C重油は171.2万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては38.4万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (9/14)	前週 (9/7)	前週比
ガソリン	1,588	1,492	▲ 96 (6%)
ジェット燃料	855	782	▲ 73 (9%)
灯油	2,317	2,112	▲ 205 (10%)
軽油	1,454	1,482	▼ -28 (-2%)
A重油	668	666	▲ 2 (0%)
C重油	1,712	1,704	▲ 8 (0%)
合計	8,594	8,238	▲ 356 (4.3%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

9月10日～16日のドル建て中東原油価格は値下がり、為替レートも円高で、円建て輸入原油価格は値下がりし、元売会社の卸建値は値下がりしたものと見られる。しかし、補助金の減額が大きく、9/19～9/25の実質卸価格は値上がりとなる模様。

## 6 国内/製品小売価格

9月17日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の174.6円、軽油は同横ばいの154.2円、灯油は18%ベースで同2円高の2,107円(1%ベースでも同0.2円高の117.1円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油は2週ぶりに値上がり止まり、灯油は5週ぶりの値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが23都府県、横ばいは10道県、値下がり14府県だった。全国最安値は岩手県の168.1円、その次は愛知県の169.1円であった。他方、最高値は長野県の183.6円。最も値上がりしたのは沖縄県(同1.1円高)、最も値下がりしたのは長崎県(同0.7円安)だった。

次回調査時(9/24)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (9/17)	前週 (9/9)	前週比	直近高値
レギュラー	174.6	174.5	▲ 0.1	23/9/4 186.5
灯油	117.1	116.9	▲ 0.2	08/8/11 132.1
軽油	154.2	154.2	▶ 0.0	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2024第24号) の公表は、9/27 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。